

【報道関係各位】

三谷産業株式会社
2018年9月12日

三谷産業、BIM セミナーを開催

～「BIM の課題と可能性」をテーマに、日本仕様の BIM 活用を提案～

三谷産業株式会社（本社：石川県金沢市／代表取締役社長：三谷 忠照、以下 三谷産業）は、建設業界で注目度の高い BIM（Building Information Modeling）の課題と可能性をテーマに基調講演や取り組み事例紹介を行う「BIM セミナー」を、9月11日（火）、三谷産業東京本社のあるビル1F イベントホールにて開催しました。

■日本仕様の BIM 活用を提案

建設業界の新たな潮流である BIM は、コンピュータ上で実物と同じような仮想 3D モデルを作り、さまざまな属性情報を付加する設計手法です。

施工現場の人手不足への対策や、首都圏を中心に増えるオフィスビルのファシリティマネジメントへの活用が期待されています。また社会的には、働き方改革関連法案が成立しましたが、建設業界においても労務負荷の低減とともにテレワークなどの柔軟な働き方の実現が求められており、BIM はそうした要求に応えるうえで重要な役割を担うツールとして期待されています。

ところが、現実にはなかなか普及が進んでいない現状があります。課題としては、「企画、設計、施工、維持管理までを全て対応できるフル BIM にこだわりすぎる」「設計から施工現場まで熟知し、かつ ICT スキルが高く、外部との調整もできる人材が少ない」などが挙げられますが、特に重要なのは、**欧米発祥の BIM は、日本の建築工程に適していない**ことに考えられます。

日本の建築工程では、欧米とは異なり設計図だけでなく、現場の職人が使用するためにさらに細かな情報を記載した施工図が重視されます。そこで、企画、設計から施工までの工程に携わる関係者間でのすり合わせが重要であり、その連携が日本の建築の強みであると考えられます。

BIM の利点として「一貫性」「整合性」「統合」というキーワードが挙げられますが、**建築工程全体で関係する企業間で連携のルールを決めることで、建築物の 3D モデルを共有しながら精度を高めていく**ことができます。このような日本仕様の BIM 活用は、海外企業に対しても競争力を持つと考えられます。

さらに、今後は **3D のモデルに時間軸を加えた「4D-BIM」への取り組み**を進めていきます。3D では物理的な収まりの干渉チェックが可能ですが、実際の現場では施工工程を意識した施工図が必要であり、時間軸を加えた 4D にすることで工程、工法といった時間的な干渉チェックが可能になります。

三谷産業は、設計から施工管理までに精通した知見を活かし、今後さらに BIM の活用を推進し、働き方改革、生産性向上に努めてまいります。



セミナー会場の様子

■「BIMセミナー」概要

1. イベント名 BIMセミナー（第14回三谷ソリューションセミナー）
2. テーマ BIMの課題と可能性
3. 日時 2018年9月11日（火）14:00～18:30
4. 会場 ベルサール神保町アネックス（東京都千代田区神田神保町2-36-1）
5. 参加者数 197名
6. プログラム

第一部 基調講演「BIMへの期待」

講師：芝浦工業大学 システム理工学部 教授

三谷産業株式会社 社外取締役 増田 幸宏

第二部 BIM取組事例の紹介

【三谷産業株式会社】

- ・ BIMの課題と可能性の整理
- ・ 施工BIM活用事例
- ・ これからのFM活用に向けて

【パートナー企業】

- ・ Aureole Construction Software Development Inc.（三谷産業ベトナム子会社）
- ・ 株式会社ヤマト
- ・ 株式会社NYKシステムズ
- ・ 株式会社ヤマイチテクノ

第三部 意見交換会

<本件に関するお問い合わせ先>

三谷産業株式会社広報事務局（共同ピーアール）

TEL：03-3571-5258

E-mail: mitani-pr@kyodo-pr.co.jp